屋上の百合霊さんファンブック　三山音七合同
LUCKY GOLD

●もくじ

3P　たろ

8P　晴太

9P　やまだ(仮)

15P　星井 七億

19P　ガスリー

23P　神護カジキ

25P　あんかけ てけ

26P　あとがき

SWEEP
GOES
OF

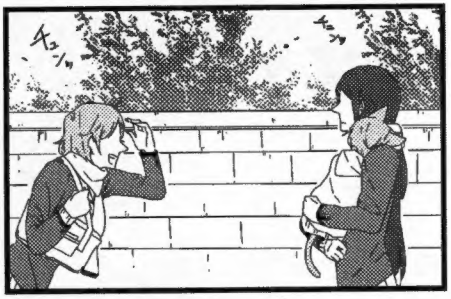
にゃんこ騒動

たろ

察し

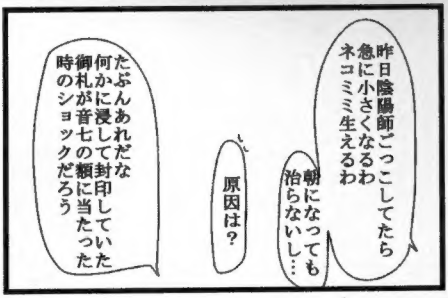
おはよー
今日も清々しい友情日和！

にゃーーーーん


チュッ
チュッ

ささささささ子ども産んじゃったの
分かったちゃんと責任とるよ
なんか音七に似てるけど！
ヨ-ト
ミツ
馬鹿ッ違えから

陰陽師役:沙紗さん



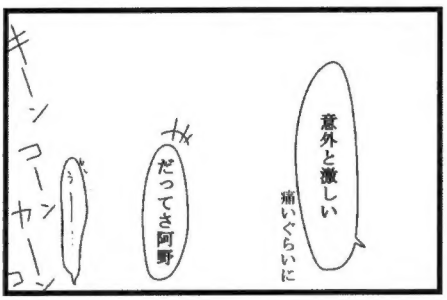
ハンター剣峰との遭遇

こちとら幽霊を相手していた身ぞ？

まともじゃなかった

投げた

ロマンチックではない



SWEEP

GOES

OF

イラスト:晴太

……それで

人をこんな所まで呼び出して

言い訳のひとつぐらい聞かせてくれるんだろうね～？

……

時とも会わない

やまだ(仮)

と、とにかく！

折角出かけるんだから楽しもうよ！ね！

ちょっ…

行こっ♪

……

3人で、な

ほら音七 魚が3匹！ まるで私達みたい！

1匹 真逆突っ走ってる あたりもそっくりだな

ほ、ほら ワニだよワニ！ 口おっきーい！

でかい口は一緒なのに 騒がしさはまるで違うな

さ、魚はいいよねー 文句とか言わないし！ ちょっとしたことで スネないし！ ね、音七！

ちょっとした事の 積み重ねが問題だって 分からないのが問題 だよな、音七

……

ダ
4
羽美
!
沙紗
!?
ねっ音七なんd
羽美
あたしゃ寝たいんだよ
友情切ー
ば
ば
いいから黙ってデートしな
はい
はい……

ボソ
さ、沙紗のせいだからね
なんであたしだよ そもそもは羽美が！…
ボソ
沙紗だってその後ー

…まったく
世話が焼けるよね

音七ー！
もうすぐアシカショーが…
あ…
END

SWEEP

GOES

OF

寝心地のいい人

星井七億

「音七、お誕生日おめでとう！」
質素な佇まいの部屋の中にクラッカーの破裂音が鳴り響くと、宙を舞ったいくつかの小さな紙吹雪がひらりと、音七のベリーショートの上に乗っかった。
「いやー、無事に十七歳になることができたね」
「どうもありがとう」
呟くように言って、小さく頭を垂れる音七。
「ふふっ、音七はこういうときでもいつものテンションだな」沙紗が薄く笑った。
少しぶっきらぼうに答えた音七であったが、けして嬉しくないわけではない。むしろこうしてまた大切な親友達と誕生日を迎えられた喜びを、表情の少ない顔の裏でゆっくりと噛み締めている。いつもより少しだけ、眠気も浅い……気がしなくもない。
十二月三日。この日は音七、十七歳の誕生日だった。三人の目の前にはバースデーケーキにチキンにサラダ、ドリンク。それと各々がコンビニで買ってきたスナック類などが並んでいた。
本当なら誕生日パーティーなどはあまり進んでやる気もしない性分であり、おそらく羽美と沙紗がいなかったら普段通りコタツでごろ寝でもしていたことだろう。それをいけないとは思わないが、それでも二人にこうして祝ってもらえることのありがたさや喜びも、音七は心の底から理解していた。
「じゃあこれ！　早速音七にプレゼント！」
羽美は背後から、リボンが結ばれた大きめの包袋を引っ張り出してきた。
「へえ、結構大きいじゃないか」
「私はねえ、やっぱり音七にはこれしかないと思って」
音七は羽美から包袋を受け取った。大きさに反して結構軽い。何か柔らかいもののようだった。
「開けるよ？」音七が確認を取る。
「へへへ、どうぞどうぞ。びっくりするよ。サプライズの快眠まくらだよ」
「快眠まくらって言ってるじゃないか」
「やっぱり寝るのが好きな音七にはさあ、もっと穏やかな眠りを提供したいかなって。だったら安眠グッズなんかイイなあと思ってさあ」
「まあ、たしかに最近はちょっと眠りづらくなってきたよ」音七が呟く。
「お、音七にしては珍しい現象だな。まさかの不眠症か？」

「いや……気がつけば放送室でいつも二人がいちゃついているから」
その一言に、羽美は飲んでいたココアを吹き出しかけ、沙紗は全身が硬直した。
「まあ、いいんだけど。度が過ぎなければ」
「ご、ごめん音七」
「う、うん。以後、気をつけるから……」
羽美と沙紗は目配せをして、自重を心がける決意をした。音七も実はそれほど気にしているわけでもない。二人の仲がいいことに越したことはない。ギスギスしているよりはずっとマシである。
「それより音七、プレゼント開けないと。ほら」沙紗が促す。
「あのね、これ『大人向けの特別な枕』なんだって」
「ふーん、低反発素材とか、そういうやつかな」
「わかんない。実はどんな商品なのかも観てないんだよね。とりあえず『大人向けの特別な枕』ってネットのショッピングサイトに書いてあったから、注文してみたんだ。十七歳ってもう大人みたいなものだからさあ。特別っていうくらいだからきっとすごいんだよ。金で出来てるとか」
「硬くて寝れないだろ」
そういえば、枕にこだわったことないなと音七は思った。無頓着に見えながらもこだわりが強く、特にパーカー選びには余念がない音七ではあったが、自分が一番お世話になっているはずの枕にはあまり考慮したことがなかった。寝ようと思えばすぐに寝られる体質のおかげでもあった。
リボンを解き、袋の中から枕を取り出す音七。
瞬間、部屋中にピシっとした空気が張り詰める。
片面がピンク、もう片面にブルーの生地が使われているその枕は、形状こそ一般的な枕そのものであったものの、その大胆な彩色と、ピンクの面に書かれた『YES』、ブルーの面に書かれた『NO』の字が強いインパクトを放っていた。
「あー、これは……」
それがなんなのかを理解して、反応に困る音七。一方、沙紗は頬を染め、目を見開いてそれを見ている。
「あはは、何このデザイン。自分でプレゼントしておいてなんだけど、すっごくダサい！」
お腹を抱えて笑いながら、自分のあげた枕に指をさす羽美。
「う、羽美。一体なんてものを……」沙紗が呆れ顔でその満面の笑顔を見つめる。
「へ？　何って、快眠まくらでしょ？」
無垢な表情で沙紗を見返す羽美。

「まさか羽美、これがなんなのかわかってないのか？」
「なんか変なデザインだなとは思うけど……」
「いや、これはさ……」
沙紗が頬を染めながらも、その『大人向けの特別な枕』の正しい使い道を、羽美にそっと耳打ちする。
最初は呆けていたような羽美の表情もすぐに強張り、やがて耳まで真っ赤になった。
「うわぁ！　ご、ごめん音七！　そんな使い道に困るようなものを……！」
「いや、枕には違いないし、寝られるなら特に問題ないし。ありがとう、羽美」
しずしずと身体を縮こませた羽美。はぁ、と呆れながらも、羽美のそんなところが少し愛おしくも思えていた沙紗に、音七は『大人向けの特別な枕』を突きつけた。
「……使う？」
「使わないよ！　音七がもらったものだろ！」
「そ。じゃあ放送室に置いておく」
それはそれでまたおかしな状況を招くんじゃないか、そもそも学校に持ってくるんじゃないと沙紗は思った。
「そ、そうだ。沙紗はどんなプレゼントを持ってきたの？」
「ああ、私はゲームを買ってきたんだ。音七が好きそうなやつ」
沙紗が手渡した小さな包みには最新のゲームソフトが入っていた。
「ん、ありがとう。嬉しい」
「来年もこうして、三人で誕生日を迎えたいねえ」
そう言って満足そうな顔でケーキを口に運ぶ羽美。その表情は今日の主役である音七よりも幸せに満ちていたが、友人に対する情が誰よりも厚い羽美だからこその姿だ。そしてその羽美を心から愛している沙紗。
言葉にも表情にも出すことはけしてなかったけれど、二人が自分の親友であること、音七にはそれがとても嬉しく、そして頼もしく感じられた。
午後十時を回ったところでパーティーはお開きとなり、羽美と沙紗は音七の家をあとにした。
寒空の下で二人の背中を見送っていくうちに、音七は自分の中に本人からみても柄にも無いような想いがよぎっているのを感じていた。
あの二人がもう、愛し合って共に朝を迎える関係であることは理解できている。彼女達だけではなく、きっとこの世界の想いを通じ合えている恋人達のほとんどが、そうなのだろう。
眠りというとても大事で、だけど怠惰で、そして無防備な時間を、二人だけで共有して、そうして夜を超えて絆を深めていくことが、『当たり前』になっているのかもしれなう。

あの二人ならきっと、自分が思い煩う必要もなく、その『当たり前』をこれからも乗りこなしていける。それは自分にとっても、幸せなことなのだ。

――では、自分はどうだろうか。

眠るのは好きだ。これ以上ない至幸だ。だけれども、自分は色恋に興味がない、つもりである。人前でそう表明したこともあったし、自分の性格を考えればこれからも余程のことがない限り、それは変わることのない感情なのだろう。

だけど……それでも……もしかして、いつか自分も誰かと寄り添って、朝を迎える日が、迎えたい人が現れる日がくるのかもしれない。

本当に？　そんなことって本当にある？

羽美は、沙紗は、いつか自分もそんな日がって、それまで考えたことがあった？

この人と二人でも大丈夫、じゃなくて、この人と二人がいい、と思える人が現れる、そんなことが……。

ふと、ひとつの影が脳裏をかすめた。

見覚えのある姿。一体誰？　なぜ急に私の中に？

深くイメージしてみた。羽美？　沙紗？

それは、腰まであるウェーブヘア。

それは、すぐ真っ赤に染まる頬。

それは、眼鏡の奥にある潤んだ瞳。

少しずつ、だけど鮮明に、はっきりとしてくる姿。

今日はその人を招かなかった。親友三人の水入らずのパーティーだったから。

――だけど、明日の放課後。二人きりで買い物に行く予定の人。

プレゼントを買いにいこうねと、緊張気味に意気込んでいた人。

誕生日のお祝いなんて普段なら煩わしい行事、二日続けてやってもいいかなと、思わせてくれた人。

なぜあの人の顔が思い浮かんだのか。どうしてそんな考えがよぎるのか。今は何もつかめない、言葉にもできない、何もかもがよくわからないけれど……。

なんとなくあの人の身体は、抱きしめていると寝心地が良さそうだな、そんな気がしていた。

少なくとも、今日もらったあの趣味の悪い枕よりは。

Fin

イグノーム・ニア
ガスリー
おーい阿野ー
お風呂上がったよー
ん？おーい
って寝てる？
ん～…ぎり起きてる…
もー
はぁ…
そういうのはあたしの仕事でしょーが
スヤ…

いやもうそこまでなら寝ててもいいよ？

いや～？まだちょい頑張るよ～？

そんなこと言ってもあたしももう寝るよ？

これは嘘

でも最近家では音七遅いじゃん？

そう…そうだけどちょっと違う

阿野が家に来ると眠気が引いてしまうんだ

無防備…

って
何考えてるんだ
おかしい
これは
そーいうのじゃない
この感覚は
そうださしずめ
寝落ちたら
頭打つよ
シロジョでおモテになる
お嬢様をこの手で
汚してやりたい
とか…
そんな嗜虐的な
そんなところ
そうでないと困る
あー…
何だか今日の
音七は
優しいね
ごめんやっぱ
ちょっと限界…
この女は…

この女は
私の根幹を揺さぶってくる
メガネくらい取りなよ
らしくない
実にらしくないと思う
ありがと
音七
やっぱり優しい♪
そんな事…ないよ
羽美や沙紗を
笑えないかな
END

音七さんの周りのあれやそれ
神護カジキ
音七ーー！どこいっちゃったの？
音七ーどこだー？あと探してないのは屋上ぐらいか…
羽美かわいい
音七いた！ってこの猫どこから入ったの！？

結奈と比奈

ああねむい～

おー

ここで装備変えられるよ～

かっこいい

あ

私購買行って来るね

ピコ

私もいく！

ピコ

そう？ゲームしてていいわよ？

じゃあお願い

いく！

うん

この子素直なんだな～

阿野

音七はさ友達が付き合いだしてさみしくなったりしない？

ん～？

別に～そうでもないよ～

阿野だっているし

ええええええ

なんだよおそれ～！

ん？

END

あんかけ てけ

「猫の天球儀」様頒布
アレンジCD
Yuritopi A rrange
ジャケット使用イラスト

参考楽器一覧

結奈:篳篥(ひちりき)
比奈:龍笛
阿野:バイオリン
音七:シンセサイザー
沙紗:オルガン
羽美:鍵盤ハーモニカ
桐:琴
月代:アコーディオン
ラブロック:ギター
聖苗:カスタネット
美紀:アコースティックギター
茉莉:和太鼓
美夕:締太鼓

参加者さま あとがき

音七は猫みたいな性格に見えて結構世話を焼くところが好きです。

そういう子ほど事件に巻き込みたくなりますね！

音七合同誌のお誘い
ありがとうございました！

3P～
星井 七億

8P
晴 太

9P～
やまだ(仮)

参加させていただき
ありがとうございました。

放送部トリオ大好きです。
もしも続編があるなら
音七さんの恋愛にも
どんどんスポットを！
(でも一番好きなカップルは
ラブロックだったり)

15P～
星井 七億

ギャップ萌えが、好きなので
音七さんを動揺させる事に
力を加えました。
楽しんでいただけますと
幸いです。
素敵な企画、お誘いいただき
ありがとうございました
ガスリー

19P～
ガスリー

音七さんカッコよすぎです
百合雲さんプレイし直したら
「何だこのイケメンは！」
ってなりました。
音七さん描いてて楽しかったです
お誘い頂きありがとうございました！

23P～
神護カジキ

奥付

屋上の百合霊さん　三山音七合同
“SLEEP GOES ON”

発行サークル:半固形情操論
編集:あんかけ てけ
発行イベント:2014年3月23日「めざせ!ユリトピア! 3」
印刷:サンライズパブリケーション様

無断転載　複製　ネットオークション等での売買はご遠慮ください。

参加者様一覧

たろ様
晴太様
やまだ(仮)様
星井七億様
ガスリー様
神護カジキ様

お買い上げ・読んでくださってありがとうございます。
音七さん合同自体は前々から一度やってみたかった事であったので
このような形で実現することが出来て大変嬉しく思います。

主催個人のページは力不足でこの度
同イベント内　サークル「猫の天球儀」様頒布の“yuritopiArrange”へ
参加させていただいた際のイラストを
モノクロですが掲載させていただきました。

今回こうして参加していただき普段あまりお目にかかれない音七さん像を
見ることができたのではないかと思っています。
主催ながらたのしく本を出すことができました。

あらためて読んでいただきありがとうございました!
めざせユリトピア!!

あんかけ てけ

サークル“半固形情操論”
めざせ!ユリトピア3頒布